

経済ポケット ジャーナル



カラフルな新作が並ぶサンボーホール会場



★神戸の特産、ケミカル 夏物の見本市開かれる

日本ケミカルシユーズ工業組合（石井善司雄理事長）が主催する「夏のケミカルシユーズ見本市」が去る二月十五、十六日、市立中央体育馆とサンボーホールの二会場で開かれた。この靴を扱う商談の場として国内最大

今夏の特徴としては、白を主体に淡い色調が多く、白

ヒールも比較的低いが、最近の多様化する消費者のニーズに合わせてか、やはり多種多様。価格は昨年並みだった。

★西神IPへの

工場移転計画すすむ

神戸市では、神戸経済の高度化を図って垂水区西部に造成している西神インダストリアルパーク（西神IP）総面積二四〇㌶、うち工場用地一五六㌶への進出企業を公募していたが、日本電気、国際試薬など単独進出企業九社と、神戸機械金属団地協同組合、西神機械金属団地協同組合加入の二十六社、計三十五社の申し込みがあり、第一次募集を締切った。

早速、去る二月二十日、トップを切って神戸機械金属団地協同組合の中小企業十二社の起工式が行なわれた。同協同組合はいず

★K O B E オフィスレディ★



松芝 美津子さん（19才）

（株）三愛関西営業部総務課経理係

「会社にくるのが楽しくて」「オフィスの雰囲気もいいし、男性も親切でやさしい人ばかり」と話す松芝さん。昨年入社。経理関係の仕事を中心に受付も担当しており、高校時代から三愛を目指してたというだけあってファッショニも関心が深い。理想的な男性は——「一見、冷たくて優れたやさしさのある人」とか。休みの日にはスカートを作ったりする女の子らしい面もある可愛い人。長田区在住。（神戸野田高校卒）



「神戸の中堅130社」

★「神戸の中堅130社」

日経より出版

日本経済新聞社から「神戸の中堅130社」が発刊された。これは昭和五十二年九月に出版されてベストセラーとなつた「神戸の中堅100社」の改訂増補版で、県下に本拠を置く非上場企業を130社に拡大して、新たに「中堅130社」として再編された。

理事長／川上勉、副理事長／木村豊、理事／柿本公資、木口衛、杉田良昭、高畠、浜本積広、細川数夫、松岡、賢藏、三浦幸衛、監事／浅井義一、柏木幸也、事務局長／田中勇二郎

れも住工混在地の企業で、経営の合理化、市街地の環境整備をめざして結成し、西神IPへの移転を計画していたもので、共同金融、共同受電・受ガス、共同警備、共同の通勤送迎バスの運行などの集団化のメリットを考え、来春には一部操業開始される予定。

日本経済新聞社から「神戸の中堅130社」が発刊された。これは昭和五十二年九月に出版されてベストセラーとなつた「神戸の中堅100社」の改訂増補版で、県下に本拠を置く非上場企業を130社に拡大して、新たに「中堅130社」として再編された。

★KFA 新しく発足

任意団体の神戸ファーリング・ヨンアンシエーションは、協同組合神戸ファーリング・ヨンアンシエーション（通称・KFA）／組合員三十五社／

場の優良企業のうち、各業界における指導性、経営戦略の特異性などがひとときわ光るものを見た。百三十社とりあげられている。業績をはじめ社風や経営方針をおりこんでの内容で、活力あふれる中堅企業群の実態を紹介している。一、三〇〇円。

異人館に(ラインの館(旧オーライン邸) (神戸異人館センター)) ユーハイムオープン!

ぶらり神戸の道すがら
ユーハイムでティータイム。

異人館の外観をそのまま喫茶室とケーキコーナーに。
北野町のユーハイムで、
伝統の味と異国情緒をお楽しみください。



- 毎週月曜定休
- 営業時間AM10:00→PM6:00
- 神戸市生田区北野町2-78ラインの館1F
☎(078)222-6266



オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



月例グルメの会：シェフによるメニュー説明

年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎ (078)331-8111

きもの工芸

あんぐら屋



東京

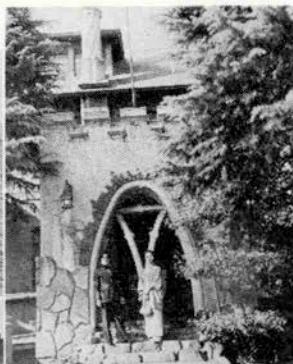
本部・仕入部
本店
さんちか店
銀座コア店
銀座メルサ店
渋谷東急店
日本橋東急店
東京都中央区銀座五丁目八一〇〇
東京都中央区銀座五丁目七一二
（六階和裝街）
（五階吳服売場）
東京都中央区日本橋通一丁目九一
（四階吳服売場）

電話〇三一五七三一五二九八（代）
電話〇三一五七三一五二九〇（代）
電話〇七八一三三一一五二九八（代）
電話〇七八一三三一一一七〇〇
電話〇三一五七四一八〇六五（直）
電話〇三一四七七一三四〇九（直）
電話〇三一一一〇五一一（代）
（内線二九四）



あなたのファッションをFRESH UP!
Fashion
Cleaners
ニシキヤ
神戸市灘区北田町1番地 (078) 851-2440 (代)
山手店 三宮店 熊内店 宝塚店

私自身の神戸



六甲会館にて



住吉川にて



伏見稲荷神社にて



北野天神にて



元町一番街にて



稻荷神社にて



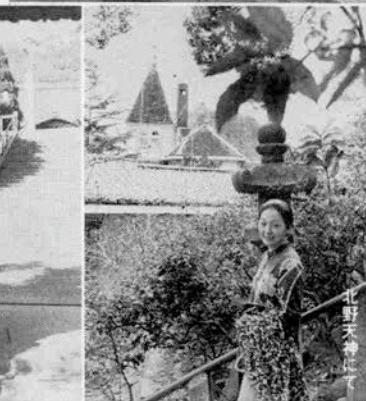
垂水の海岸にて



垂水界隈—灰谷健次郎
△作
家▽



垂水の海岸にて



伏見稲荷神社にて



元町一番街にて

- 深江界隈—春木一夫 △作 家▽
- 岡本界隈—朝比奈千足 △指揮者▽
- 六甲界隈—鈴木正幸 △神戸大学助教授▽
- 北野界隈—白石弘子 △染色家▽
- 元町界隈—伊藤ルミ △ピアニスト▽
- 平野界隈—武田則明 △建築家▽

- 垂水界隈—灰谷健次郎 △作 家▽
- 垂水界隈—灰谷健次郎 △作 家▽

私の家から約一〇〇メートル西へいったところ。二車線ほどの通りが、南北に通じている。東灘区深江のマーンストリートで、稻荷筋と呼ばれている。山ろくと海のそばにある二つの稻荷神社を結ぶ線だから、稻荷筋と名づけられたものらしい。私の散歩道の一つで

春木

一夫△作家▽

東灘・稻荷筋散策

私自身の神戸（1）

ある。

山ろくに鎮座する稻荷神社は立

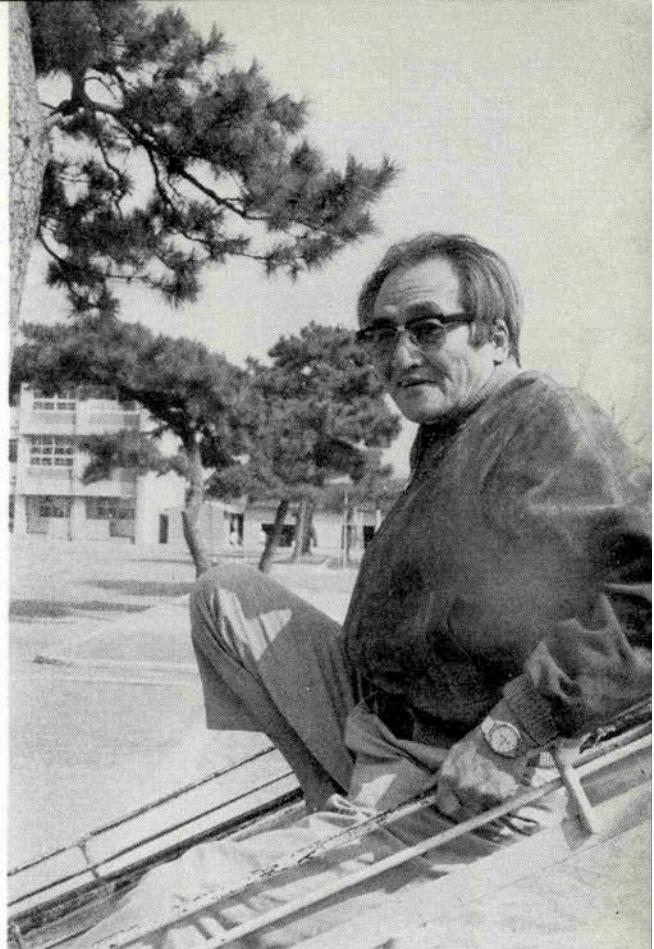
派な社であるが、海浜に近い白玉稻荷社は小っぽけである。大日神社の片隅に、間借りをしているよ

うな格好だ。稻荷神社の奇魂が、小っぽけな白玉稻荷の方に、軍配があがりそうである。

「お稻荷さんの祭神は、孤な

千二百六十年ほど前の靈龜元年に

本誌編集部の小泉美喜子さんに



本庄小学校の松は西国街道の道筋だった。校庭のスベリ台で筆者。

●メモ

阪神深江一大日神社稻荷社—踊り松旧蹟地一本庄小学校—進徳丸一「灘っ子」東灘散策参考までに春木さんの下記の著書をご紹介。

灘五郷歴史散歩（創元社）380円

兵庫史の謎（神戸新聞出版センター）980円

阪神間の謎（中外書房）1,300円

たずねられ、情けなくなつた。

祭神は宇迦御魂である。「食」の

意味であつて、一切の食物をつかさどる神だ。狐はこの神の使いだとされている。ウカノミタマは別名を御饌津神と呼ばれおり、これを三狐神と書いたために誤解を生じた。あるいは、お稻荷さんは仏教でいえば、叱枳尼天だという本地垂跡説がある。ダキニテは玄狐に乗つてゐるので、これから転じて、狐がお稻荷さんの使いになつたのでは……。

大日神社から西へ約五〇メートル。高梁橋のたもとに、踊り松旧蹟地がある。高梁川改修に際し、多数の一石五輪塔が出てきたので、これを集めて「踊り松地蔵」としている。五輪塔は江戸時代のものらしい。誰の墓かわからないので、地蔵と名づけたのであろう。この道は、西国街道の裏街道で、



深江本町3丁目の踊り松地蔵は素朴で愛らしい。左は高梁川。

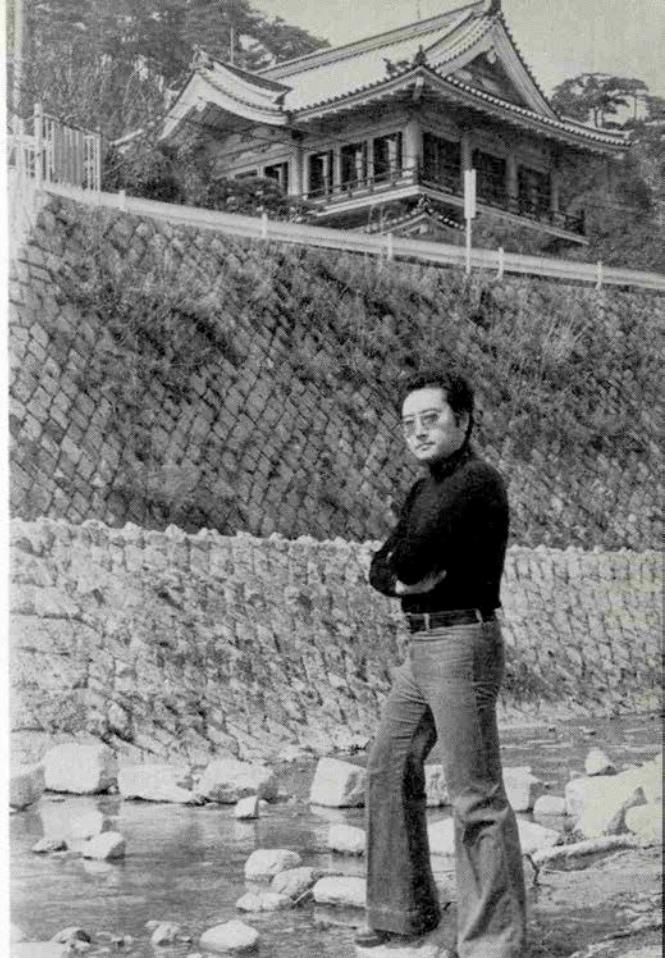
今国道2号線が本街道にあたる。西宮神社で二つに分れ、西灘あたりで、再び一本となる。この裏街道を西へ二〇〇メートルほど進むと、本庄小学校の校庭に、松が十本ほど並んでいる。街道に昔から植えられていた松並木の名残りだそうだ。今では松並木のそばで、旅人ならぬ小学生が、喚声をあげて遊んでいた。もとの稻荷筋に引き返す。国道43号線の陸橋を

渡ると、海が間近だ。商船大学の練習線進徳丸が白い姿を浮かべてゐるのが、右手の視野に入つてくれる。東部市場へ入るまでに橋がかかっている。この橋までが、以前は砂浜だった。短かい突堤が伸びていて、そこから海に飛び込んだものだ。左手視線を転じると、昭和三十年代につくられたコンクリートの堤防が、一部道端に残されている。

夕方になると、酒恋しや人恋しやで、よくこのあたりに出かける。堤防の前に、赤れんがの窓から海の見えるレストラン「アボロー」、灘酒を呑ませる鍋ものの店「灘っ子」がある。今日も「灘っ子」をのぞいた。いつもは灘酒ばかりなのに、今日は珍らしく小鼓がおいてある。私の故郷・丹波の銘酒だ。さつく熱燗で、一本注文。神戸肉のしやぶしやぶでもやるとするか……。



「灘っ子」で灘の生一本と丹波地酒「小鼓」をのむ春木さん



幼い頃の風情が残っている住吉川河原、白鶴美術館はお気に入りの場所。

●メモ

音楽界で多才に活躍中の朝比奈千足さんは岡本のマンションにお住まい。洒落たセンスと落ち着いた雰囲気のこの界隈が大好きだとか。京美人の加代夫人もピアニストの素敵な音楽ご夫婦です。

<コース>

白鶴美術館→住吉川・河原（きれいなせせらぎ、お弁当が欲しくなる）→甲南大学裏手の静かな小径→小川の流れるバス通りから住吉川に沿って下る→阪急電車岡本駅南側近代的ビル街→西洋風めしや「ドッコ」→阪急ガードわきのお好み焼店「大雄」

ふれあいある町

朝比奈 千足（クラリネット奏者）

もう「おらが村」という感じまでにすっかりこの土地が気に入ってしまいました。ここに住みはじめたのは結婚してから、まだ四年にしかなりませんが…。岡本はいわゆる郊外の住宅地というだけでなく、近代的な都会のセンスもちゃんと持ちあわせてい

ます。しかも不思議なことに、甲南大学をはじめ各学校の学生達が毎日行き通う町であるにもかかわらず、「学生街」的猥雑さがないのです。それにしてもここには麻雀荘が少いんですね。ではまず僕の子供の頃の思い出の場所から案内いたします。あの

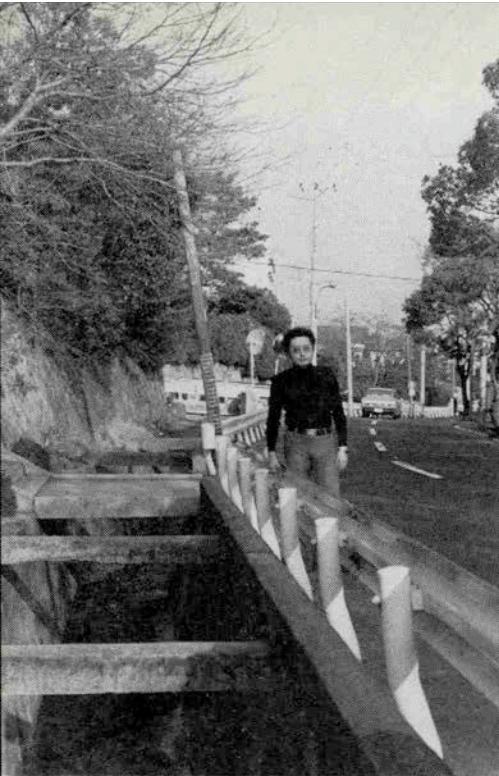
白鶴美術館がある辺りの住吉川は、まだ昔のまま残っています。小学校の時、よく写生に来たり、六甲山へハイキングに行くのにこの河原から登りはじめたりしたものです。それから、ここからの大阪湾の眺めは、あの当時はきっと今より何倍も素晴らしいものだったろうと思います。でもそんな景色より弁当の中身と石の下のサワガニが興味のもっぱらの対象でした。そういうわけで、天気の良い日で気分転換したいと思った時は、よくこの美術館を訪れたついでに、その下の河原までおりてくことがあります。

甲南大学の裏手の静かな小径

も、最近僕のお気に入りの散歩道になりました。バス通りの一筋山側は、普段からあまりひと気がないでの、デートには最適だなんて声もありますが……。道は勿論アスファルトが敷いてありますが、とにかく田舎的風情ではあります。

阪急電車岡本駅を下車して、すぐ南側の道をプラプラ行きますと、急に新しいファッショナブルなお店がたくさん並んでいるのにちょっとびっくりさせられます。有名なサンドウイッチの店、洒落た舶来専門の小物屋さん、味も値段もかなり上等なおし屋さんとか。まあ神戸の六本木といった感じですが、本当はもっと岡本にぴったりといった、やや地味だがそれでいて職人気質を感じさせるお店の方が僕は好きです。

食いしん坊なのでどうしても食べる所ばかりになりますが……。



静かな岡本界隈は絶好の散歩道です。お勧めのデートコース。

まず、手際のいいことでは天下一品のご主人が、たった一人でやっている「西洋風めしや」のドッコ。十人もいっぺんに来られたら、もう座れなくなるカウンターだけのお店です。女房が晩ごはんを作のをサボッた日には、よくここでブタ肉のしょうが焼とかグラタンなんてを食べます。とにかく一度に三種類ぐらいの料理なら平気で、アツという間にできあがるの

を見てると、あれでよくゴツチヤにならないものだといつも感心させられます。



お好み焼きの美味しい「大雄」にて（右は加代夫人）

夜遅くなつてからの帰りに、ちよとオナカが減ることがあります。そんな時よく立ち寄る店が大雄というお好み焼屋さんです。このご主人は僕の小学校の時の先輩だそうで、奥様も一緒にやつていてとっても美人。お好み焼きはぶ厚くてアツアツ。特に変った店がまえでもないし、ご主人が愛想がいいわけでもないのに何となく気に入っています。十二間通り、阪急のガードわきにある小店です。

この界隈では、五月の訪れと共に、「岡本村」の村祭りで出るダンジリのお囃子の音が聞えてきます。また夏の終りには盆踊りも催されて、ここの人々の心のふれあいが保たれています。

神戸の、ちょっとびりなつかしいふるさとに愛着を感じます。

「坂」は上りつめれば山であり下りを辿れば海でなければならぬ。その振幅の大小が、坂のある街の特性を規定する。その最も小さなスパンの中に、自然・歴史・文化の生み出しありとあらゆるもののが内包されている魅力、それが神戸の魅力である。

六甲にある私の家から十五分で六甲山に上り、牧場で遊ぶかとおもえば、下れば十分で摩耶埠頭にて外洋船を楽しむことができる。六甲は坂のある街の原点である。教育学部の建物は、神戸大学の中でも一番高い所にある。その四

六甲、坂を下ると：

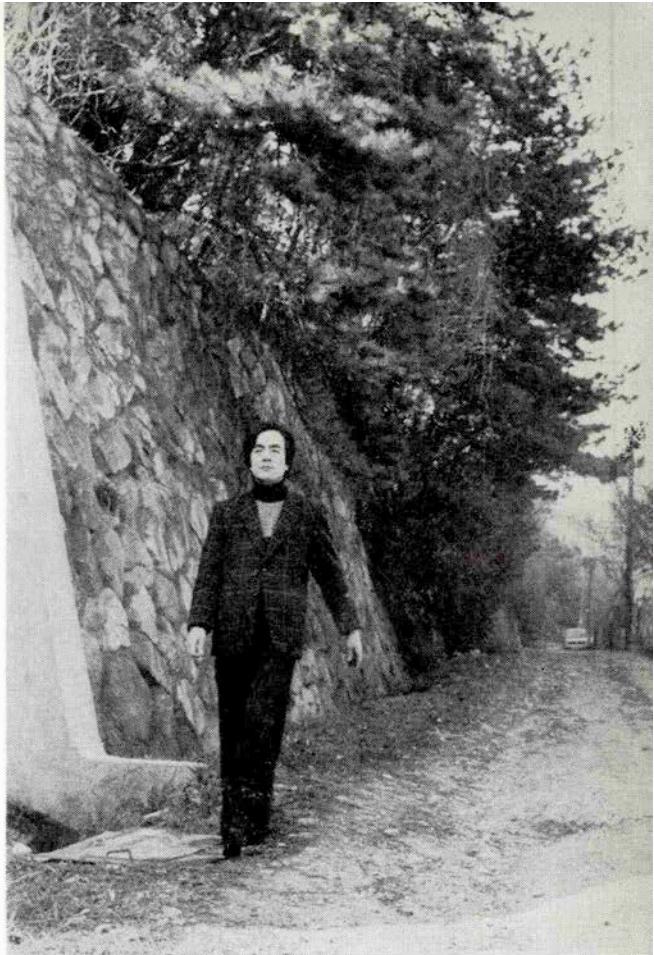
『私自身の神戸』（3）

くだ

鈴木正幸／神戸大学教育学部助教授▽

階の研究室から眺む港の景色は素晴らしい。晴れた日には淡路を眼下に遙か紀伊水道まで見渡すことができる。夜景の美しさは描写のすべを知らない。どういうわけか、年に数回、信じられない程美しい輝きを発する夜がある。

以前、大学の新聞に六甲味案内を書いたせいか、食い気心中に六甲を紹介せよとの編集者の註文である。コーヒーは、家でのむことが多い。毎日通っていたルームがママの都合で店を止めたからである。比較的よく行く店に、石屋川のしむらがある。場所柄、頻る庶民的な客層で北野店と対照的である。



神戸大学の構内は坂道ばかりだ。本部横の小径。

●メモ／取材一日目は鈴木先生の愛車マークIIで、教育学部を出発。坂を下へ下へ降りてグルメ探索となる。ハイジ、グロアール、にしむら珈琲石屋川店等。その合に間に（翌朝のための？）パンをヌーベル六甲で買うという愛妻振り。取材二日目はその紀子夫人もご一緒で、晩の食事の買い物のお手伝い。

が喫茶店としては一級である。又一ベル六甲はナマチマとして全体にゆとりがないが伽羅木には時々出かける。一寸すましたんはトアロードのんとは別の顔をもつ。珍しく、数え上げればきりがない。ハイジの前田社長と以前から懇意にしている。彼の独特な味哲学は語らせて止まらない。新製品に取りくむ真摯な姿勢を持ちつづけてほしい。このチョコレートは東京でも評判になりつつある。女子学生にバトロを薦めて感謝されている。老夫婦の手づくりの味は神戸ならではである。値段が安いのがよい。フルカワは六甲でフロイントリープのケーキとパンが食べられる店として重宝である。

和菓子については神戸のレベルは全般的に低い。六甲山系のうま

く、数え上げればきりがない。ハイジの前田社長と以前から懇意にしている。彼の独特な味哲学は語らせて止まらない。新製品に取りくむ真摯な姿勢を持ちつづけてほしい。このチョコレートは東京でも評判になりつつある。女子学生にバトロを薦めて感謝されている。老夫婦の手づくりの味は神戸ならではである。値段が安いのがよい。フルカワは六甲でフロイントリープのケーキとパンが食べられる店として重宝である。



阪急六甲北側のヌーベル六甲。ここでパンを買う。

い水が神戸市民に飲まされないところにお茶とお菓子がよくならぬいのではなかろうか。熊内通りのつる屋本舗に足を延ばしていたが近ごろは阪急三宮店に叶匠寿庵が入り、大阪にまで行かずにつんで有難い。食べる方では、グローバルによく行く。目立たぬ店構え(弓木町交差点西)にママとオバアちゃんの心のこもった味が楽しめる。

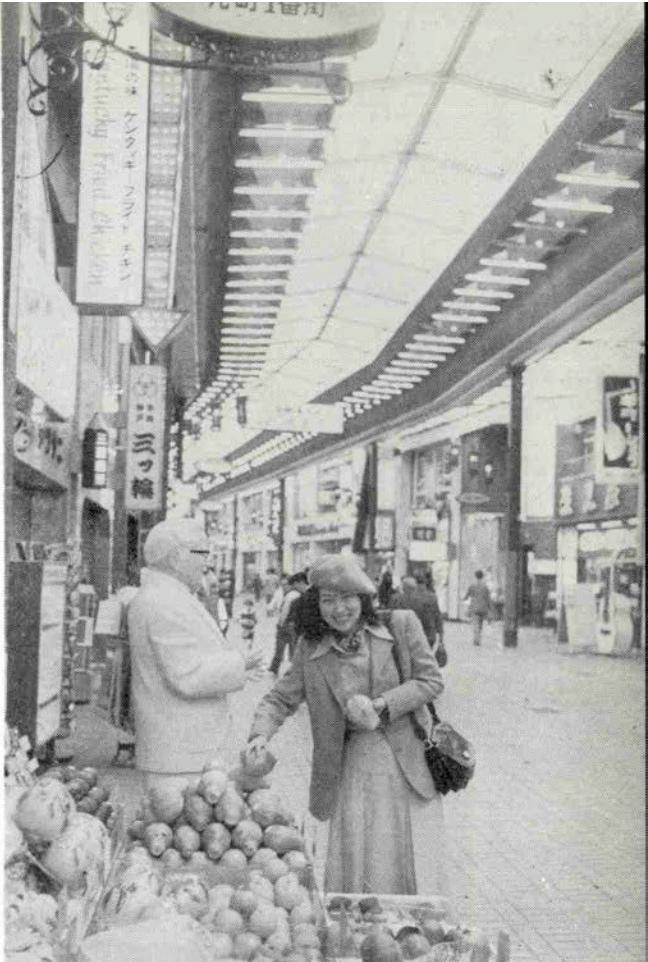
奥の部屋を借りて学生と昼食会を

時々している。逆巻きで知られるようになつた寿し一、我が家の住人スミちゃん(美人猫、名前は三

宮のスナックのママからとる)の実家かっぱ天国にもよく行く。うどんとそばの椿寿亭を紹介して、美味求真の大嶋老師から激賞された。三宮自由軒との長いおつき合いの関係で、六甲自由軒にも時々出かける。うまくて安くて学生に評判がいい。御影公会堂前のおでんとうどんの屋台は、午前四時ごろまでやつていて便利。屋台ながら一級の味である。名前がなく、命名を依頼されているが未だいい名前が思いつかない。大学祭でこのおでんとハイジのケーキで模擬店を出したところ大当たりであった。焼肉では阪急西灘駅の末広がいい。六甲にグリメのようなサンドイツのおいしい店があれば女子学生で繁昌すること間違いない



グローブル。ママ(右)と紀子夫人



元町のフルーツショップ「サンワ」の前で「おじさん、これ2つちょうだい」

私自身の神戸〈4〉 ゆとりを感じる元町

伊藤

ルミ△ピアニスト▽

ピアノの練習に明け暮れる毎日。フツとと思ったつてショッピング。気分転換? いえいえ憂さ晴らしかも。

さんちか・センター街をひとめぐりして目の保養。そして元町。

元町の好きなところは通りの広いこと。右や左のショーウィンドウ

ウに気をとられながらキヨロキヨロしているときも、時間に追われていそぎ足に通るときも、まず人とぶつかることがありません。つまりマイベースで気のむくままシンピングができるところかな――

建築には門外漢の私ですが、老舗の歴史を思わせる店構えや、思いの趣向をこらした店造りに気をとられ、ショーウィンドウの中を見るのがおろそかになることも再びです。

一丁目の山側、穴門筋に老舗の画廊があります。元町画廊で

この元町通り、人の多いわりに混雑感がないのは、通り 자체が適当にカーブしていて、はしからはしまで見通せないからということをきいたことがあります。それにそれぞれのお店の間口が広くて、天井が高いということも、ゆとりを感じさせるところか。

●メモ

期待される若手ピアニストの伊藤ルミさん。神戸生まれの神戸育ちで、神戸がとっても好きという彼女、毎日の練習の合間に神戸の町まちを散策しながらショッピング。なかでもなじみのお店が多い、ゆったりとした元町が大好き。

〈コース〉
大丸前元町入口から1番街。すぐ山側の元町画廊で絵をみながら佐藤さんと談話。岡田シルクで生地をみて、大番ではレコード探し。神戸ヤマハで楽譜を買ってその前のディラでサンドイッチと紅茶をたのしんでちょっとひと休み。待ち合わせたかのように顔見知りの人たちに会う。そして風月堂ホールへ。

す。ちょっと入りにくいムードですが入ってしまえば、街の雑踏とは無縁の静かな絵の世界。疲れた神経を鎮めてくれます。この穴門筋入口には、かまぼこの老舗「かねてつ」があります。このお店の前を通ると「てつちゃんてつちゃん」の聞きなれたメロディがうかび、しばし童心にかえつたりします。少し歩くと「岡田シルク」。婦人既製服全盛の今、服地専門店が少なくなりましたが、中でも数の少ないステード用生地を大量にそろえているありがたいお店です。そういえば、私のはじめての有料の会のドレスもこの生地でつくったものでした。その向いにはレコードの『大薔』。電話注文でレコードをとりそろえてくれ、時には廃盤になったものまで広い販売網で探ししてくれますので、ここも私にとってありがたいお

店。

歩き疲れてちょっとひとやすみの時は、「三つ茶屋」、「あじさい」、「ディーラ」などで。食事時は「つるてん生樂」、「みの幸」などに腰をおちつけます。

さて、三丁目浜側に、一昨年末「風月堂」が新築されました。このビルの地下に小ホールができたときいたとき、うれしい予感がしました。その予感が現実となつた。

戦無派の私にとって、昔の元町は話でしか知ることができません。けれど、神戸に立ち寄る外国人、神戸に住んで母国に帰った人々が神戸といえば「モトマチ」といって、懐しんだ街であったとききます。

「もとまち」。旧くからの神戸つ子の街。これからもファッショナブルでインターナショナルな街でありますように……。



心鎮まる元町画廊で。右が佐藤廉さん。



風月堂ホールで試奏する筆者



ブルームーンをあなたに……（サムホールにて）

坂のまち、薫りの町

私自身の神戸〈5〉

白石 弘子

△染色家、「がれりあ馬亜乃」オーナー

冬のなごりの山茶花の花びらが、風のまにまに落ちてくる。またたくまに、坂の小道が薄紅色に染まってゆく。そして風に吹きよせられ小さな疎水に流れおちる。下水を通つていつか港にながれつくのだろう。昨夜来の雨に洗われ坂の小道は美しい。この道はト

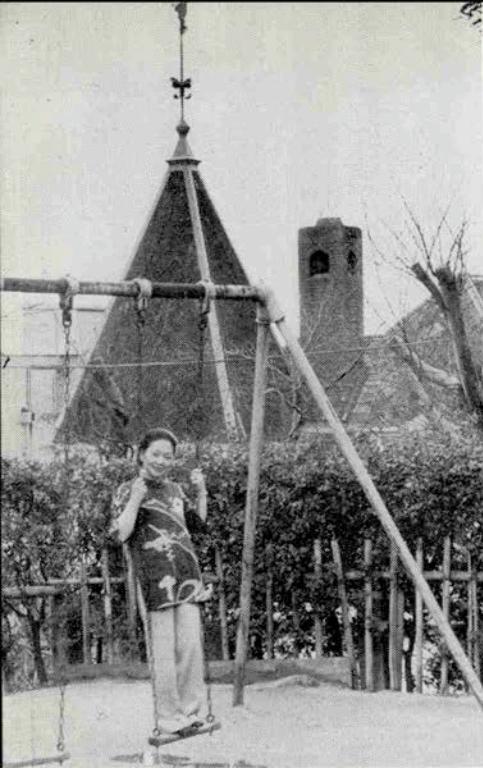
アロードをのぼりつめ、神戸クラブを道なりにすぎると右手にひとときわ大きな金木犀が目につく。白いマンシヨンと金木犀の間にたつと、シユエケ邸の煙突を透して港がはるかにみえる。人目につかな小道なのに画人がひつそりとスケッチをしている。あ、沈下花の薫

り、もう春なのです。この道をトロトロ下りてゆくと異人館通り。東に少し歩き、高い石垣のある華僑総会を左にみて、なだらかな細い坂をのぼる。ふとふりむくと異人館俱楽部の三階の屋根と窓、そして中庭のうすもやのようないみどりの樹々が絵のようだ。計算された演出にさすがと思ひながら、白い異人館（小林秀雄邸）に向う。くすのき、と夾竹桃の繁みのある手入れの行き届いた庭をみながら玄関に上る。スリッパに履きかえて静かに館の内をみせていただき。秋にはここで「木と染と織」の展覧会を開くことになり、今日はその下見もかねている。二階へ

●メモ

がれりあ馬亜乃～異人館通り（シユエケ邸、門兆鴻邸、華橋総会前）～白い異人館～北野町北公園～風見鶏の館、北野天満宮～ノア・アンティック～麻布キヤンティ（異人館俱楽部）～バビエ・シフロン（同）～サムホール（ローズガーデン）～がれりあ馬亜乃

の階段の手すりには、織った布をかけ、その下の木の長椅子には渋い色彩のクッション、カーテンレールは木彫の飾り棚つきをしようと。生活の中に息づく会にしたいと希望がふくらむ。再び庭に出て隣りあった北公園のベンチから、キラキラと光る海を見る。すぐ右上には風見鶏の館、北野天神とづいている。急な石段を上つてゆくと、静かな境内に小さなプランコが二つ雨上りの水たまりをさけてそっとブランコに身をまかす。山の上の天神さんと異人館。不思議にとけあつてゐるのです。可愛いい五才位の女の子が近づいてくる。「大人はブランコにのつたら、いかんのよ」と叱られる。ゴメンナサイとあやまる。裏山の梅林からはおぞざきの梅がほのかに匂つてきます。春とはいえここは山のすぐふもと。風がさつと海にふき



そっとブランコに身をまかせる（北野天神にて）

ぬけてゆく。北野通りの交番を左にハンター坂を下りてくる。シャレた店構えのノア・アンティックをのぞいてみる。店主は仕入れのためヨーロッパ行。留守居役のお父上に古きよき時代のガラスの小品ばかり、店主の趣味の良さと高い選択眼はにくらしいほどうれしい。ハンター坂をもう少し下りると異人館通りに出合う右角が異人



小雨にけむる北野の坂道は、まるで絵のよう。

どんな坂を上つても、ふとふりかえると海がみえる。北野はそんな町です。春は沈丁花、秋ならば金木犀の匂いのする町でもあるのです。こんな町がすきで私は毎日を生きています。雨の日の静かな町を歩いてみて下さい。

どんな坂を上つても、ふとふりかえると海がみえる。北野はそんな町です。春は沈丁花、秋ならば金木犀の匂いのする町でもあるのです。こんな町がすきで私は毎日を生きています。雨の日の静かな町を歩いてみて下さい。

神戸に住んでいる人でも意外と平野を知らない人が多い。都心に近い住宅地でありながら地形的な特長として六甲山脈と会下山や大倉山や海洋気象台の前山に囲まれた盆地になつてゐるせいかも知れない。十年前まで神戸に市電がない。国道二号線の脇ノ浜走つていた。国道二号線の脇ノ浜

から三ノ宮そして栄町を通つて楠公前を抜けて有馬道で北へ右折し楠六を通り県病院を通り平野終点に至る一〇系統が走つていた。二十年以前は市電が市民の足で通勤者が毎朝長蛇の列をつくり停留所で次々に乗り込んでいるのを眺めながら平野小学校に登校した

浮世床も夢の跡

武田 則明 ▼建築家▼

私自身の神戸 ▶6

のを思い出される。

平野小学校の古い先輩に小磯良

平画伯がおられ、戦前の講堂に画

伯の絵が飾つてあつたそつたが戦

災に会い、私は見たことがない。

平野も何時から終点と言わずに交

叉点と呼ばれるようになつたのだ

ろうか。交叉点から東へ山麓線を

バス停一つ目が五ノ宮だが、これ

は神戸の一の宮神社から始まる五

番目の神社がこのバス停から約二

〇〇米程北側にあり、この神社の

東側は梅元町と言い、その昔森本

梅林がありこの地名が付いたそ

だ。この森本家は神戸地下街の森

本泰好氏の本家だそうだ。現存は

梅林がなくなつてしまつて地名だ

祥福寺の境内でちょっと気取ってポーズを。

●メモ

平野は盆地になつていて、川崎造船所に勤める職工さんや職員の人々が住み新開地、湊川公園、円山市場と一大近隣商店ができあがり発達した街だ。この街に生まれ育った武田さんは歩いていても知人によく出会われ、「ここにちは」の挨拶が絶えない。とても美味しいからと案内してもらった『うどん屋』がお休みで、それだけが心残り。下町で親しみ易い街です。

取材コース／平野交叉点→祥福寺（祥容庵）→祇園神社→湊川温泉（天王温泉）→家庭裁判所前→街角で武田夫人と子供達に会い武田建築設計事務所兼自宅へ



けになつてゐる。

五宮神社の西隣に山田無文老師のいらつしやる祥福寺がある。禅宗の修業寺で葬式をしない寺といふことになつてゐるが。昨年私の息子がお世話になつてゐる楠幼稚園の創立者であり前園長である山崎先生のお葬式を例外として取引になつていただいた。編笠をかぶり墨染めの僧衣でお経を誦えながら長い列を作つて歩く雲水の姿もこの土地の風物詩だろう。山の裾を縫うように歩くと南さんや小曾根さんの大きな御屋敷が続き遠く会下山公園や新開地や川崎造船所が望める。

平野の交叉点を見降ろす奥に祇園神社がある。御存知の七月十四日が祇園さんのお祭日で多くの商店が並び夏の風物詩として楽しみにしている。小学生の時は提灯を作り石段の両側に並べたものだ。

この神社のすぐ南の天王川沿いに湊川温泉と天王温泉がある。早朝から開いている天然の温泉で、お年寄や毎朝登山の帰りに一風呂あびて、一日の仕事に出かけられる方も多いようだ。以前は脱衣室と下足入の間に広い部屋があり碁と将棋が常時、出来るようになつていて、常連のお年寄達が半日将棋をさしていた。落語に出てくる浮世風呂や浮世床の熊さん、八さ

んの場が木造の温泉からコンクリートの温泉に建てかえられ近代化されなくなつてしまつた。また復活したいものだ。



子供時代の遊び場、祇園神社の石段で。

幼稚園帰りに街角でばったり、武田ファミリーです。

平野の交叉点から南へ昔五郎池の停留所があつた所は今は家庭裁判所前になつて、池も地名もなくなつてしまつた。ここに緑色のドームの建物が目に入る。これは少年鑑別所で昔は神戸の証券取引所の建物で、周辺に銀行や事務所ビルが建つてゐた。現代は少年鑑別所の周囲が高い塀で囲まれ、地区的のミニティが分断している感がある。私はこのような施設はもつと住宅地から離れた場所に在る方が、少年にとつても、管理する側からも良いと思う。今ランドマークになつてゐる緑のドームをむしろ地区的の活動の中心の施設として開放し、このドームの下でロックフェスティバルでも開いたら面白いなあと思うのだが。

